

【 概 要 】

2013年度 民間住宅ローン借換の実態調査

I 調査の概要

現在、民間住宅ローンの借入があり、2012年11月～2013年10月に借換をされた方を対象として借換による住宅ローンの金利タイプの変化、借換理由などの事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。回答数：1287件

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 借換後の金利タイプは、約半数が「固定期間選択型」

- ・借換後の金利タイプは、「固定期間選択型」が約半数(49.8%)を占めている。
(「変動型」32.2%、「全期間固定型」17.9%) <p.2>
- ・借換後の金利タイプ別利用割合の月ごとの推移をみると、2012年12月までは「固定期間選択型」と「変動型」の利用割合がほぼ拮抗していたが、その後「固定期間選択型」が上昇し、「変動型」が低下している。<p.3>

2 借換までの経過期間は、「5年超10年以内」の割合が最も高い

- ・借換までの経過期間は、「5年超10年以内」の割合が最も高く、42.0%となっている。次いで、経過期間「10年超15年以内」が24.5%となっている。<p.4>

3 年齢層が高くなるほど、「全期間固定型」への借換割合が低下

- ・借換後の金利タイプを年齢別に見ると、年齢層が高くなるほど「全期間固定型」への借換割合が低下する傾向がある。<p.5>

4 金利低下と返済額減少が借換理由の大半

- ・借換理由は、「金利が低くなるから」が63.2%、「返済額が少なくなるから」が50.7%となっている。<p.6>